

# 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

## 1. 学校概要

学校名 多摩市立多摩永山中学校 (※正式名称を記載)

種 別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫<sup>※注1</sup>

中学校  中高一貫<sup>※注2</sup>  高等学校

教員養成大学  専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (例：小中高一貫 )

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒 206-0025

東京都多摩市永山2-7-1

E-mail \_\_\_\_\_

Website http://schit.net/tama/jhtamanagayama/

幼児児童生徒数 男子 165 名 女子 129 名 合計 294 名

幼児・児童・生徒の年齢 12 歳～ 15 歳

## 2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

※報告書提出時点～平成 30 年 3 月末までの活動は、予定 (見込み) として記載ください。

## 3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800 字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

当校は、「自らを律し、自分の生き方を創造することのできる人間性豊かな生徒の育成」を学校理念として、ESDを「この地球で生きていくことを困難にするような問題をについて考え、立ち向かい、解決するための力を育む教育」と捉え、ESDの実践を通して「人格の発達や、自律心、判断力、責任感などの人間性」「他人との関係性、社会との関係性、自然環境との関係性を認識し、『関わり』『つながり』を尊重できる個人」の育成を目標とした。

具体的には、環境、防災、国際理解を柱に、①環境保全に係わる活動、②防災に係わる教育、③国際理解に係わる学習を行った。

### ① 環境保全に係わる活動

第一学年において、2泊3日の移動教室を行い、「命をいただくこと、環境について考える」として、体験活動を行った。具体的には、1日目に溪流釣り体験とニジマスの調理を行い、自分で釣った魚を自分で捌いて食べるという活動を行った。2日目には、農作業体験として、水田での田植えと畑でのラディッシュの収穫・選別、農家の方の講話を聴いた。秋に収穫された米は、学校に送ってもらい、学校で食べた。これらの活動から環境保全と生物多様性の重要性を学んだ。

## ② 防災に係わる教育

8月末に、学校全体で「防災デイキャンプ」を開催した。「明日起こるかもしれない大地震等の災害に備え生徒自らの力で自助・共助・公助を行うことができる技能と態度を養う」「教職員及び生徒の防災意識とスキルを高める」という目標のもと、「和式トイレを簡易洋式トイレにする方法」「座っている人の立たせ方」「ひとりで移動できない人の移動のさせ方」「寝ている姿勢の人のおこし方」「グレーチングを利用したの竈の作り方」「スコップの使い方」等の実習を行った。これらの活動を通して、いざという時の身の守り方を身に付けるとともに、災害時に互いに助け合い、中学生として自分の力を困っている人のために活かすことの大切さを学んだ。

## ③ 国際理解に係わる学習

11月に、日本に留学生として来ている大学生、大学院生を招き、講話や体験学習を通してその国の歴史や文化、言語や習慣などを学習した。今年度は、ウズベキスタン、ブラジル、台湾からの留学生が来校し、それぞれの国や地域の歴史、文化、言語、民族衣装や遊びなどを紹介していただき、実際に遊んだり、話したり、着たりといった体験をすることができた。また、世界友達プロジェクトとして、マレーシア大使館の方をお招きし、気候や風土、食文化などを紹介していただいた。



① 田植え体験



② 防災デイキャンプで作成した竈



③ 世界友達プロジェクトでの講演

## (2) 活動の詳細

### ① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

#### ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他( )		

#### イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 )	

#### ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 )	

#### エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

農林水産省ホームページ <a href="http://www.maff.go.jp/j/wpaper/w_maff/h28/h28_h/trend/part1/chap0/c0_1_00.html">http://www.maff.go.jp/j/wpaper/w_maff/h28/h28_h/trend/part1/chap0/c0_1_00.html</a> 東京都防災ホームページ <a href="http://www.bousai.metro.tokyo.jp/1002147/">http://www.bousai.metro.tokyo.jp/1002147/</a>
---

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

ESD を通じて育てたい資質や能力を明確にし、課題解決型の学習過程を重視した教育課程を編成するため、本校では、各教科で ESD に関わる指導内容を抽出し、教科ごとに作成している ESD カレンダーで学校全体として共有している。その中で、教科を越えて連携して指導できる内容についても確認し、学校全体として効果的に指導できるよう工夫している。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境を整えるため、本校では、毎年、年度初めにシラバスを作成し、各教科等の年間の指導計画を明示している。その中には、指導内容だけでなく、導時数や時期、評価の方法も含めて示されており、ESD に関わる指導内容が、全体の計画の中で適切に指導されるよう工夫している。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

今後のユネスコスクールとしての活動の質の向上のため、毎年、年度末に行う学校評価において、各学年や校務分掌ごとの取り組み内容に対する反省や意見、改善点などを協議している。それにより、移動教室における環境教育の重要性が再確認され、防災教育のより一層の充実（避難訓練を含む）が課題となった。また、来年度から留学生の話聞く会が実施できない事となり、その代替となる活動の検討が課題となった。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

ESD の推進拠点として、市の「こども未来会議」で配布される冊子に本校の移動教室における環境教育の取り組みを掲載した。多摩市の中学校では、春の移動教室を行っている学校が他に無く、スキー教室が主流であるため、本校の取り組みは他の中学校にとって ESD への取り組みの実践例として参考になる資料となった。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)  
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

環境教育では「一般社団法人 里くら」の協力を得て、田植え体験や畑での農作業体験、農業講話を実現することができた。留学生の話会では「公益財団法人 国際理解支援協会」を通じて講師を派遣してもらい、講演と体験活動を実施した。世界友達プロジェクトでは、マレーシア大使館の協力を得て職員を派遣していただくことができた。こうした連携を通じて、持続可能な社会の構築のためのネットワークを築いていこうとしている。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

多摩市内の小中学校が集まって、年に3回から4回程度研修会を行っている。その中で、教員が ESD について改めて学習したり、各学校での特色ある取り組みについての情報交換をしたり、互いの取り組みについて助言しあったりしてきた。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）  
※チェック事項 2-5 に対応

環境教育により、生徒は「自然の大切さ、豊かさとは何なのかを改めて考えさせられ、良い経験になった」などと環境保全の大切さを再認識することができた。防災教育により、生徒は、災害時にまず自分の身を守り、次に自分の力を活かして互いの安全を守ることの大切さを知ることができた。

- (3) 平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

5月に移動教室を行い、環境教育を中心に体験学習を行う。それに向けて、1年生では4月から事前学習を行う。8月末には、防災教育として、学校全体で防災デイキャンプを行う。その中で、1年生では簡易トイレの準備と作成、2年生ではかまどづくり、3年生では避難所運営ゲームを行うなど、学年ごとに体験学習を行うことを予定している。